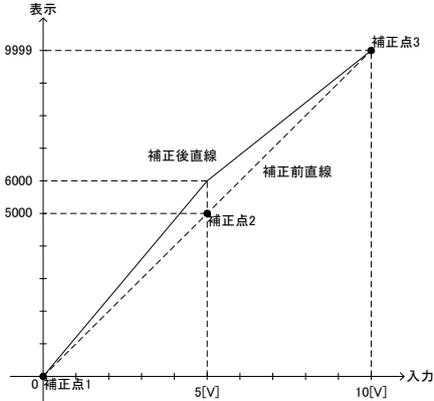


デジタルパネルメータ MODEL AM-215Aシリーズ リニアライズ機能/シフト機能取扱説明書

1. リニアライズ補正機能

1.1 考え方

本器のリニアライズ機能は補正点数間の直線性を入力値(補正前の表示値)と出力値(補正後の表示値)により設定します。



- ① 補正点数を3と設定します。
- ② 補正点1の入力値(0)と出力値(0)を設定します。
- ③ 補正点2は13レンジに対して5[V]入力したときの値(スケールは初期状態)が入力値になるため入力値を5000、出力値を6000と設定します。
- ④ 補正点3の入力値(9999)と出力値(9999)を設定します。

1.2 操作方法

1234 (測定動作)

↓ (E)+(M)

cond

↓ (P) 3回

Lc n E

↓ (M)

n-00 (補正点数入力)

↓ (M)

n-01 (補正点1設定)

↓ (M)

0 (補正点1入力値)

↓ (M)

0 (補正点1出力値)

↓ (M)

n-02 (補正点2設定)

↓ (M)

0 (補正点2入力値)

↓ (M)

0 (補正点2出力値)

⋮

n-16 (補正点16設定)

↓ (M)

0 (補正点16入力値)

↓ (M)

0 (補正点16出力値)

↓ (E)

1234 (測定動作)

補正点Xの入力値/出力値の状態(0等)で約8秒間キー操作がない場合はn-XXの表示へ戻ります。

(P) 桁移動 (▲) 数値変更又は選択肢変更

(E) 測定動作に復帰 (■) 初期値

02~16	補正点数を入力します。このパラメータにより設定された補正点の設定を以下のパラメータで設定します。
※初期値は00	
-9999~+9999	補正点1の入力値(直線性補正前の表示値)を入力します。
※設定条件(補正点n入力値) > (補正点n-1入力値)	
-9999~+9999	補正点1の出力値(直線性補正後の表示値)を入力します。
-9999~+9999	補正点2の入力値(直線性補正前の表示値)を入力します。
※設定条件(補正点n入力値) > (補正点n-1入力値)	
-9999~+9999	補正点2の出力値(直線性補正後の表示値)を入力します。
-9999~+9999	補正点16の入力値(直線性補正前の表示値)を入力します。
※設定条件(補正点n入力値) > (補正点n-1入力値)	
-9999~+9999	補正点16の出力値(直線性補正後の表示値)を入力します。

2. シフト機能

2.1 考え方

本器のシフト機能は表示値を強制的にシフト(オフセット)する機能であり、デジタルゼロでは制御不能な数値指定が可能となっております。

2.2 操作方法

1234 (測定動作)

↓ (M)+(P) (3秒)

SHF

↓ 約1秒

0

↓ (M)

0

↓ (E)

1234 (測定動作)

- | | |
|-------------|--------------------|
| -9999~+9999 | オフセットさせる表示値を入力します。 |
| ※初期値は0 | |
| (P) 桁移動 | (▲) 数値変更又は選択肢変更 |
- ※約8秒間キー操作が無い場合は、「SHF」表示へ戻ります。さらに「SHF」表示の状態では約8秒間キー操作がない場合は測定動作へ戻ります。
- Mキーにより設定した値を記憶し、現在の入力に相当する表示値に対してシフト演算を含んだ表示値となっていることを確認。
- 注意: Mキーを2回以上押すとシフト値の設定表示に戻りますので、再度シフト値の設定を行ってください。再設定を行わないで測定動作に戻りますと表示にシフト値は反映されますが、バックアップはされませんので注意してください。
- ※約8秒間キー操作が無い場合は、「SHF」表示へ戻ります。さらに「SHF」表示の状態では約8秒間キー操作がない場合は測定動作へ戻ります。但し記憶したオフセット値(シフト値)は表示反映されます。

お願い

シフト機能の設定範囲は-9999~9999の値となりますが、コンパレータデータの設定をされた後にシフト設定をされますと、シフトの設定範囲が0~9999となり、マイナス側への設定ができないことがあります。この場合は、一旦電源を再起動して頂き、改めてシフト設定を行って頂けます様、宜しくお願い申し上げます。